

実地調査と国の専門検討会の結果、① CCS実証試験を行うために必要な環境として、二酸化炭素の貯留に適した複数の地層やその地層に関するデータが存在すること ②近隣に二酸化炭素の大規模な排出源（工場・発電所など）が存在すること ③地盤構造調査がスムーズに進行したことの3点により、日本全国115カ所の候補地点から選ばれ、2012年2月、経済産業省の委託事業として、日本初の大規模CCS実証試験プロジェクトが苦小牧に決定しました。

もえべつ たきのうえ 萌別層と滝ノ上層という 貯留に適した2つの地層

苦小牧には、萌別層と滝ノ上層という貯留に適した地層が2つあります。苦小牧沖実証試験では、2層への貯留・定着までを目的とした9年間という長期のスケジュールで進めます。

最初の4年（表1）は準備期間で、地上設備の建設、安全性確保にかかる調査・検討、法規制などの対応、調査井や圧入井の掘削、事前モニタリングを実施します。2016年度からの5年は、圧入・モニタリング期間として、年に10万t以上の二酸化炭素を圧入し、貯留された二酸化炭素の動きを注視していく予定になっています。

準備期間である現在は、分離・回収基地を設計中で、更に3本準備する観測井のうち、萌別層調査井の掘削工事を今年1月か



苦小牧誘致活動の第一歩となる、官民共同の苦小牧CCS促進協議会を設立（H22（2010）年4月）

これまでの歩み



苦小牧沖海底調査のための3次元弾性波探査（H22（2010）年8月）



地下から採取した地質サンプル。貯留に適した萌別層と滝ノ上層を確認（H23（2011）年2月）



苦小牧CCS-1号坑口装置（H23（2011）年2月）

CCSフィールドトリップ。各国の技術者が見学（H24（2012）年11月）

日本CCS調査株式会社
貯留層評価グループ
やまのうち よしのり
山之内 芳徳 さん



日本CCS調査株式会社では、温暖化防止のために日本のCCS技術を確立する目的で、経済産業省からの委託を受けて苦小牧での実証試験を行っています。

CCSと言われても、わかりにくい分、心配が多くあると思います。地中に二酸化炭素を入れて漏れ出さないのか。海洋汚染で漁業への影響はないか。地震への影響はないのか。

もちろん、現段階で安全であると確認された地層への貯留のため、定着し漏れ出さず、海洋汚染も起こらないと判断しています。また、温度や圧力、量を計算して、無理が生じないように圧入するため、遮へい層が壊れることがないと考えています。

しかし、苦小牧でのCCS実証試験では、これまで以上に安全性や信頼性を高め、より丁寧なコミュニケーションと綿密な調査とデータ収集を重ね、安全第一で進めます。また、実証試験の期間中は、その過程や結果をさまざまな手法で公開していきます。今後は、建設工事現場のライブカメラの設置、